



ディレクトリ統合

- [ディレクトリ パラメータ \(1 ページ\)](#)
- [CDI パラメータ \(3 ページ\)](#)
- [属性マッピングのパラメータ \(17 ページ\)](#)
- [UDS パラメータ \(20 ページ\)](#)
- [ディレクトリサーバーの構成の例 \(23 ページ\)](#)

ディレクトリ パラメータ

次の表に、BDI と EDI のパラメータを示し、CDI パラメータ名、または Jabber 11.8 以降に適用されないかどうかを示します。

BDI パラメータ	EDI パラメータ	CDI パラメータ
-	DirectoryServerType	DirectoryServerType
-	ConnectionType	-
BDILDAPServerType	-	-
BDIPresenceDomain	PresenceDomain	PresenceDomain
BDIPrimaryServerName	PrimaryServerName	PrimaryServerName
-	SecondaryServerName	SecondaryServerName
BDIServerPort1	ServerPort1	ServerPort1
-	ServerPort2	ServerPort2
-	UseWindowCredentials	-
BDIUseJabberCredentials	-	-
BDIConnectionUsername	ConnectionUsername	ConnectionUsername
BDIConnectionPassword	ConnectionPassword	ConnectionPassword

BDI パラメータ	EDI パラメータ	CDI パラメータ
BDIEnableTLS	UseSSL	UseSSL
-	UseSecureConnection	-
BDIUseANR	UseANR	UseANR
BDIBaseFilter	BaseFilter	BaseFilter
BDIGroupBaseFilter	GroupBaseFilter	GroupBaseFilter
BDIUseANR	-	-
BDIPredictiveSearchFilter	PredictiveSearchFilter	PredictiveSearchFilter
-	DisableSecondaryNumberLookups	DisableSecondaryNumberLookups
-	SearchTimeout	SearchTimeout
-	UseWildcards	UseWildcards
-	MinimumCharacterQuery	MinimumCharacterQuery
BDISearchBase1	SearchBase1、SearchBase2、 SearchBase3、SearchBase4、 SearchBase5	SearchBase1、SearchBase2、 SearchBase3、SearchBase4、 SearchBase5
BDIGroupSearchBase1	GroupSearchBase1、 GroupSearchBase2、 GroupSearchBase3、 GroupSearchBase4、 GroupSearchBase5	GroupSearchBase1、 GroupSearchBase2、 GroupSearchBase3、 GroupSearchBase4、 GroupSearchBase5
BDIUseSipUriToResolveContacts	UseSipUriToResolveContacts	UseSipUriToResolveContacts
BDIUriPrefix	UriPrefix	UriPrefix
BDISipUri	SipUri	SipUri
BDIPhotoUriSubstitutionEnabled	PhotoUriSubstitutionEnabled	PhotoUriSubstitutionEnabled
BDIPhotoUriSubstitutionToken	PhotoUriSubstitutionToken	PhotoUriSubstitutionToken
BDIPhotoUriWithToken	PhotoUriWithToken	PhotoUriWithToken
BDIPhotoSource	PhotoSource	PhotoSource
LDAP_UseCredentialsFrom	LDAP_UseCredentialsFrom	LDAP_UseCredentialsFrom
LDAPUserDomain	LDAPUserDomain	LDAPUserDomain
-	-	LdapSupportedMechanisms

BDI パラメータ	EDI パラメータ	CDI パラメータ
BDICommonName	CommonName	CommonName
BDIDisplayName	DisplayName	DisplayName
BDIFirstname	Firstname	Firstname
BDILastname	LastName	LastName
BDIEmailAddress	EmailAddress	EmailAddress
BDISipUri	SipUri	SipUri
BDIPhotoSource	PhotoSource	PhotoSource
BDIBusinessPhone	BusinessPhone	BusinessPhone
BDIMobilePhone	MobilePhone	MobilePhone
BDIHomePhone	HomePhone	HomePhone
BDIOtherPhone	OtherPhone	OtherPhone
BDIDirectoryUri	DirectoryUri	DirectoryUri
BDITitle	役職	役職
BDICompanyName	CompanyName	CompanyName
BDIUserAccountName	UserAccountName	UserAccountName
BDIDomainName	DomainName	DomainName
BDICountry	国	国
BDILocation	ロケーション	ロケーション
BDINickname	ニックネーム	ニックネーム
BDIPostalCode	PostalCode	PostalCode
BDICity	[市区町村 (City)]	市区町村名
BDIState	状態	状態
BDIStreetAddress	StreetAddress	StreetAddress

CDI パラメータ

CDI パラメータはすべてのクライアントに適用されます。

ディレクトリ接続

PrimaryServerName

プライマリ ディレクトリ サーバのアドレスを指定します。このパラメータは、クライアントが自動的にディレクトリサーバーを検出できない手動接続を有効にするために構成できます。



(注) クライアントは、次の方法でプライマリ ディレクトリ サーバーまたはセカンダリ ディレクトリ サーバーへの接続を試みます。

- クライアントは、起動時にプライマリサーバーへの接続を試行します。
- クライアントは、次の場合にセカンダリ サーバーへの接続を試行します。
 - プライマリサーバーが使用できない。
 - クライアントが接続すると、プライマリサーバーに障害が発生する。
- セカンダリ サーバーに正常に接続できれば、クライアントは次回再起動されるまでセカンダリ サーバーへの接続を保持します。
- クライアントが接続されているときに、セカンダリサーバーに障害が発生すると、クライアントはプライマリサーバーに接続しようと試行します。

- IP アドレス：プライマリ ディレクトリ サーバーの IP アドレスを使用します。
- FQDN：プライマリ ディレクトリ サーバーに FQDN を使用します。

例：<PrimaryServerName>parent-domain-fqdn</PrimaryServerName>

SecondaryServerName

バックアップ ディレクトリ サーバのアドレスを指定します。

このパラメータは、クライアントが自動的にディレクトリサーバーを検出できない手動接続を有効にするために構成する必要があります。

PrimaryServerName パラメータの値を指定する場合は、このパラメータをフェールオーバー用に構成する必要があります。

- IP アドレス：バックアップ ディレクトリ サーバーの IP アドレスを使用します。
- FQDN：バックアップ ディレクトリ サーバーに FQDN を使用します。

例：<SecondaryServerName>www.example.com</SecondaryServerName>

ServerPort1

プライマリ ディレクトリ サーバのポートを指定します。

PrimaryServerName パラメータの値を指定する場合は、このパラメータを構成する必要があります。

例：<ServerPort1>123</ServerPort1>

ServerPort2

バックアップ ディレクトリ サーバのポートを指定します。

SecondaryServerName パラメータの値を指定する場合は、このパラメータを構成する必要があります。

例：<ServerPort2>345</ServerPort2>

ConnectionUsername

ディレクトリサーバーでの認証にクライアントが使用できる共有ユーザー名を手動で指定できるようにします。

デフォルトでは、Jabber デスクトップクライアントはケルベロスまたはクライアント証明書認証を使用します。このパラメータは、ディレクトリサーバーとの認証でケルベロスまたはクライアント証明書認証を使用できない展開でのみ使用してください。

ディレクトリに対する読み取り専用権限を持っているアカウントの既知のまたは公開されているクレデンシャルのセットのみを使用する必要があります。



重要 クライアントは、このユーザー名をプレーンテキストとして転送して保存します。

例：<ConnectionUsername>username</ConnectionUsername>

ConnectionPassword

ディレクトリサーバーでの認証にクライアントが使用できる共有パスワードを手動で指定できるようにします。

デフォルトでは、Jabber デスクトップクライアントはケルベロスまたはクライアント証明書認証を使用します。このパラメータは、ディレクトリサーバーとの認証でケルベロスまたはクライアント証明書認証を使用できない展開でのみ使用してください。

ディレクトリに対する読み取り専用権限を持っているアカウントの既知のまたは公開されているログイン情報のセットのみを使用する必要があります。



重要 プレーンテキスト送信用に LDAP 設定を構成していない限り、クライアントはこのパスワードを暗号化して送信および保存します。

このパラメータの値は、共有パスワードです。

例：<ConnectionPassword>password</ConnectionPassword>

UseSSL

デフォルト設定 : True

LDAP サーバーへの接続では、LDAPS プロトコルを使用する SSL がデフォルトで使用されます。

これを False に設定すると、プレーンテキスト LDAP プロトコルが使用されます。LDAP ポートが 389 または 3268 で、UseSSL 構成キーが設定されていない場合も、プレーンテキスト LDAP プロトコルが選択されます。



(注) 構成キーが設定されている場合は、プロトコルの自動決定をオーバーライドします。

UseANR

デフォルト設定 (すべてのクライアント) : True

予測検索クエリを実行するときに、Ambiguous Name Resolution (ANR) の使用を有効または無効にします。

True に設定すると、Jabber は予測検索に ANR を使用して LDAP クエリを構築します。

False に設定すると、Jabber は予測検索で使用する複雑なクエリを作成します。

Jabber が OpenLDAP サーバーに接続している場合、ANR は無効になっています。Active Directory サーバーへの接続時のみ有効です。

非 ANR サーバーに使用されるクエリの形式は、PredictiveSearchFilter パラメータを使用して設定します。

例 : `<UseANR>>false</UseANR>`

ディレクトリクエリ

BaseFilter

Active Directory クエリの基本フィルタを指定します。

ディレクトリへのクエリの実行時にユーザーオブジェクト以外のオブジェクトを取得する場合は、ディレクトリのサブキー名を指定する必要があります。

設定ファイルには、有効な XML 文字実体参照のみを含めることができます。カスタム基本フィルタを指定する場合は、& の代わりに & を使用する必要があります。

すべてのクライアントのデフォルト値は (&(objectCategory=person) (objectClass=user)) です。

例 : `<BaseFilter>(&(objectCategory=person) (memberOf=cn=group-name))</BaseFilter>`

GroupBaseFilter

Active Directory エンタープライズ グループ クエリの基本フィルターを指定します。

すべてのクライアントのデフォルト値は次のとおりです。

```
(&(objectCategory=group) (!(groupType:1.2.840.113556.1.4.803:=2147483648))
(使用する前に、この値に挿入されているスペースを削除してください)。
```

```
例 : <GroupBaseFilter>(&(objectCategory=person) (memberOf=cn=group-name))</GroupBaseFilter>
```

PredictiveSearchFilter

予測検索LDAPクエリの属性セットを定義します。検索クエリーをフィルタするために、複数のカンマ区切り値を定義できます。

この設定は、「UseANR」が False に設定されている場合、または非 Active Directory サーバーに接続する場合にのみ読み取られます。UseANR がどの値にも設定されていない場合、Jabber は予測検索クエリにデフォルトの属性セットを使用します。

デフォルト値は、次の Jabber パラメータの属性マッピングに基づいて作成されます。

- mail
- username
- displayname
- givenname
- surname
- nickname
- sipURI

これらの属性の一般的なマッピングは次のとおりです。

Jabber パラメータ	Active Directory 属性	OpenLDAP
mail	mail	mail
username	SAMAccountName	uid
displayname	displayName	cn
givenname	givenName	givenName
nickname	displayName	
sipURI	msRTCSIP-PrimaryUserAddress	mail
surname	sn	sn

ディレクトリサーバーが ANR 形式のクエリをサポートしていない場合、予測検索クエリに対してクエリされる属性セットをカスタマイズする場合は、この設定を入力できます。

DisableSecondaryNumberLookups

携帯電話番号、自宅の電話番号、他の電話番号などの仕事用の番号を使用できない場合に、ユーザーが代替連絡先番号を検索できるかどうかを指定します。

- 0 (デフォルト) : ユーザーは代替連絡先番号を検索できます。
- 1 : ユーザーは代替連絡先番号を検索できません。

例 : `<DisableSecondaryNumberLookups>1</DisableSecondaryNumberLookups>`

SearchTimeout

クエリのタイムアウト時間を秒数で指定します。

このパラメータの値は秒数です。デフォルト値は 5 です。

例 : `<SearchTimeout>6</SearchTimeout>`

UseWildcards

ユーザーがワイルドカード検索を使用できるかどうかを指定します。

- 0 (デフォルト) : ワイルドカードを使用しません。
- 1 : ワイルドカードを使用します。



(注) ワイルドカードを使用すると、ディレクトリの検索に時間がかかる場合があります。

例 : `<UseWildcards>1</UseWildcards>`

MinimumCharacterQuery

ディレクトリから名前を照会するために入力する必要がある連絡先名の最小文字数を指定します。

このパラメータの唯一の値は数値です。デフォルト値は 3 です。

たとえば、このパラメータの値として 2 を設定した場合、ユーザーが検索フィールドに少なくとも 2 文字を入力するとクライアントはディレクトリを検索します。

例 : `<MinimumCharacterQuery>2</MinimumCharacterQuery>`

SearchBase1、SearchBase2、SearchBase3、SearchBase4、SearchBase5

検索が開始されるディレクトリ サーバの場所を指定します。

検索ベースはクライアントが検索を実行するルートです。デフォルトの場合、クライアントはディレクトリ ツリーのルートから検索を行います。

Active Directory は通常、検索ベースを必要としません。特定のパフォーマンス要件がある場合にのみ、Active Directory の検索ベースを指定します。検索ベースを指定する場合、Active Directory 以外のディレクトリサーバーにも検索ベースを指定し、ディレクトリ内の特定の場所へのバインディングを作成する必要があります。

このパラメータの値は、ディレクトリツリー内の検索可能な組織単位 (OU) です。デフォルトの動作を上書きする場合は、最大 5 つの検索ベースの値を OU に指定することができます。



ヒント OU を指定すると、検索対象を特定のユーザグループに制限することができます。たとえば、ユーザーのサブセットが IM 機能だけを使用しているとします。これらのユーザを OU に含め、この OU を検索ベースとして指定します。

例 : `<SearchBase1>OU=Users1</SearchBase1>`

GroupSearchBase1、GroupSearchBase2、GroupSearchBase3、GroupSearchBase4、GroupSearchBase5

検索が開始されるディレクトリサーバーの場所を指定します。

検索ベースはクライアントが検索を実行するルートです。デフォルトの場合、クライアントはディレクトリ ツリーのルートから検索を行います。

デフォルトの動作を上書きする場合は、組織単位 (OU) で最大 5 つの検索ベースの値を指定できます。

このパラメータの値は、ディレクトリツリー内の検索可能な OU です。

例 : `<GroupSearchBase1>OU=Group1</GroupSearchBase1>`

IM アドレス方式

UseSipUriToResolveContacts

Cisco IM and Presence サービスが使用する IM アドレス方式を指定します。

- true : ディレクトリ URI スキームを使用します。
- false (デフォルト) : ユーザー ID @[デフォルト ドメイン] スキームを使用します。

例 : `<UseSipUriToResolveContacts>true</UseSipUriToResolveContacts>`

UriPrefix

SipUri パラメータから除外するプレフィックスを指定します。

値はプレフィックス文字列です。

たとえば、sip: が msRTCSIP-PrimaryUserAddress ディレクトリ属性の前に付加されている場合があります。

例 : <UriPrefix>sip:</UriPrefix>

SipUri

IM アドレス方式フィールドのマッピング先となるディレクトリ属性フィールドを指定します。

このパラメータの値は、次のディレクトリ属性フィールドのいずれかです。

- mail
- msRTCSIP-PrimaryUserAddress

例 : <SipUri>msRTCSIP-PrimaryUserAddress</SipUri>

LdapSupportedMechanisms

すべてのクライアントに適用されます。

LDAP サーバーで認証する順序を指定します。

各メカニズムは、連絡先サービスと LDAP サーバーによってサポートされている必要があります。

複数の認証メカニズムを区切るには、スペースを使用します。

- **GSSAPI (デフォルト)** : ケルベロス v5。デスクトップクライアントのみでサポートされます。
- **EXTERNAL** : SASL External。
- **PLAIN** : LDAP シンプルバインド。匿名はシンプルバインドの一部です。ConnectionUsername および ConnectionPassword パラメータ、または LDAP_UseCredentialsFrom パラメータが存在する場合、デフォルトで使用されます

例 1 : <LdapSupportedMechanisms>GSSAPI EXTERNAL PLAIN</ LdapSupportedMechanisms>

この例では、Jabber は最初に GSSAPI がサポートされているかどうかを確認してから、認証を試みます。GSSAPI がサポートされていない場合、Jabber は EXTERNAL がサポートされているかどうかを確認し、認証を試みます。どちらもサポートされていない場合、Jabber は PLAIN 認証を試みます。

例 2 : <LdapSupportedMechanisms>PLAIN</LdapSupportedMechanisms>

この例では、Jabber は PLAIN 認証のみを使用します。

EnableEmployeeNumber

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーが Jabber を使用して従業員番号を検索した場合に、LDAP サーバーから従業員番号を取得します。

- 0 または false (デフォルト) : 従業員番号は無効です。

- 1 または true : 従業員番号が有効です。

例 : <EnableEmployeeNumber>0</EnableEmployeeNumber>

UseLdapReferral

Windows 版 Cisco Jabber および Cisco Jabber for Android に適用されます。

連絡先の解決を試みるときに、クライアントが LDAP リフェラルを使用するかどうかを指定します。

値 :

- 0 (デフォルト) : LDAP リフェラルを無効にします
- 1 : LDAP リフェラルを有効にします

例 : <UseLdapReferral>1</UseLdapReferral>

LDAP_UseCredentialsFrom

オンプレミス展開のすべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

ディレクトリサーバーに接続するときに Cisco Jabber が使用するログイン情報を指定します。

- Voicemail : ディレクトリサーバーへの接続時にボイスメールのログイン情報を使用します。
- Exchange : ディレクトリサーバーへの接続時に Cisco Jabber が Microsoft Exchange への接続に使用するログイン情報を使用します。
- CUCM : ディレクトリサーバーへの接続時に Cisco Unified Communications Manager のログイン情報を使用します。

例 : <LDAP_UseCredentialsFrom>CUCM</LDAP_UseCredentialsFrom>

このパラメータが設定されている場合、ユーザーは、[オプション (Options)] ウィンドウでディレクトリのログイン情報を手動で入力するオプションを与えられません。Cisco Unified Communications Manager サービスプロファイルを使用するか、jabber config.xml ファイルで定義した CDI ディレクトリ統合パラメータを使用してディレクトリのログイン情報を設定することもできます。同期されたログイン情報と管理者定義のログイン情報の両方を使用することはお勧めしません。

LdapUserDomain パラメータを使用して、LDAP サーバーに対して認証を行うドメインを定義する必要がある場合があるため、注意してください (該当する場合)。たとえば、認証 ID は <CUCM ユーザー名>@<LdapUserDomain> になります。



(注) 構成が競合する可能性があるため、LDAP_UseCredentialsFrom パラメータは次のパラメータと一緒に使用しないでください。

- LdapAnonymousBinding
- ConnectionUsername および ConnectionPassword
- UseWindowsCredentials

LdapUserDomain

オンプレミス展開のすべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

LDAPサーバーに接続するときユーザー名に追加するドメインを指定します。これは、LDAPサーバーが認証にUPNまたは電子メールベースのアカウントを必要とする場合に役立ちます。このパラメータは、LDAP_UseCredentialsFrom パラメータとともに使用されます。

ユーザー名には@記号が追加され、その後にLdapUserDomainで指定された値が続きます。この値は、LDAPサーバーへの接続に使用されます。たとえば、Adam McKenzie という名前のユーザーのユーザーIDが *amckenzie* で、LdapUserDomainが *example.com* である場合、LDAPサーバーで認証されるユーザー名は *amckenzie@example.com* です。

例：<LdapUserDomain>example.com</LdapUserDomain>

LdapDNSForestDomain

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。



制約事項 このパラメータは、Windows 以外の環境の jabber-config ファイルでのみ使用してください。

Jabber は、DNS SRV クエリを使用して、最初に DNSFORESTNAME 環境変数を読み取ることで、グローバルカタログを検出します。環境変数が存在しない場合、Jabber は次に Windows API を使用して DNS フォレスト名を取得します。Jabber を Windows 以外の環境で同様に動作させるには、jabber-config ファイルの LdapDNSForestDomain に DNS フォレスト名を配置します。

連絡先の写真

PhotoUriSubstitutionEnabled

写真の表示に URI を使用するかどうかを指定します。

- true : 写真 URI の代替が有効になります。

- `false` (デフォルト) : 写真 URI の代替が無効になります。

例 : `<PhotoUriSubstitutionEnabled>true</PhotoUriSubstitutionEnabled>`

PhotoUriSubstitutionToken

写真へのパスを作成するために使用される写真 URI のトークンを指定します。

PhotoURISubstitutionToken パラメータと組み合わせて使用できるのは次の属性のみです。

- 共通名
- 表示名
- 名
- 姓
- ニックネーム
- 電子メールアドレス
- フォトソース
- 勤務先電話
- 携帯電話
- 自宅電話
- 連絡先電話
- 他の電話
- 役職
- 会社名
- ユーザアカウント名
- ドメイン名
- 所在地
- 郵便番号
- 州
- 市区町村郡
- 番地



重要 このパラメータを使用する場合は、PhotoUriSubstitutionEnabled パラメータが `true` に設定されていることを確認する必要があります。

このパラメータの値はディレクトリ属性です。

例：<PhotoUriSubstitutionToken>sAMAccountName</PhotoUriSubstitutionToken>

PhotoUriWithToken

変数値として、ディレクトリ属性が付いた写真 URI を指定します。

パラメータは LDAP ディレクトリ統合に適用されます。



制約事項 クライアントはクレデンシャルなしで、Web サーバから画像を取得できる必要があります。

写真 URI の代替を設定するには、PhotoUriSubstitutionToken の値としてディレクトリ属性を設定します。

このパラメータの値は URI です。

例：<PhotoUriWithToken>http://staffphoto.example.com/sAMAccountName.jpg</PhotoUriWithToken>

PhotoSource

連絡先の写真をバイナリオブジェクトとしてまたは写真の URI の形で格納するディレクトリ属性の名前。

値はディレクトリ属性です。

例：<PhotoSource>thumbnailPhoto</PhotoSource>



ヒント 「jpegPhoto」や「thumbnailPhoto」などの属性を使用している場合は、これらが Active Directory のグローバルカタログに追加されていることを確認してください。

PhoneNumberMasks

ユーザが電話番号を検索するときに使用するマスクを指定します。

たとえば、ユーザが +14085550100 からのコールを受信するとします。ディレクトリでは、この番号は +(1) 408 555 0100 です。+1408+(#) ### ### ##### のマスクにより、番号を解決します。マスク文字列の長さは、レジストリサブキー名のサイズ制限を超えることはできません。

電話マスクは、クライアントでディレクトリを検索する前に電話番号に適用されます。電話マスクを正しく設定すると、ディレクトリ検索がクエリの完全一致として成功し、ディレクトリサーバーのパフォーマンスへの影響が回避されます。

次の表に、電話マスクに含めることができる要素を示します。

要素	説明
電話番号パターン	<p>番号パターンを設定してディレクトリから電話番号を取得します。</p> <p>電話マスクを追加するには、マスクを適用する番号パターンを指定します。たとえば、+1408 で始まる検索に対してマスクを指定するには、+1408 +(#)### ### ##### のマスクを使用します。</p> <p>桁数が同じでもパターンが異なる電話番号をマスクで処理できるようにするには、桁数が同じ複数のマスクを使用します。たとえば、会社にサイト A とサイト B があるとします。各サイトでは、次のように電話番号の形式が異なる個別のディレクトリを管理します。</p> <p>+ (1) 408 555 0100 +1-510-5550101</p> <p>+1408 +(#)### ### ##### +1510 + #-###-##### のマスクにより、両方の番号を正しく使用できます。</p>
パイプ記号 ()	<p>番号パターンとマスクを区切ります。</p> <p>たとえば、+1408 +(#)### ### ##### +34 +(##)### ##### です。</p>
ワイルドカード文字	<p>一致すると思われる文字のサブセットの代わりに 1 つ以上の文字を使用します。</p> <p>電話マスクで任意のワイルドカード文字を使用できます。たとえば、アスタリスク (*) は 1 つ以上の文字を表し、+3498 +###*###*##### のようにマスクに適用できます。ワイルドカードとともにこのマスクを使用すると、電話番号検索で次のいずれかの形式と一致します。</p> <p>+34(98)555 0199 +34 98 555-0199 +34-(98)-555.0199</p>
逆マスク	<p>番号パターンを右から左に適用します。</p> <p>たとえば、+34985590199 に +3498 R+34 (98) 559 ##### のマスクを適用すると、+34 (98) 559 0199 が取得されます。</p> <p>順マスクと逆マスクの両方を使用できます。</p>

このパラメータの唯一の値はマスク文字列です。

例：<PhoneNumberMasks>+1408|+(#)### ### #####</PhoneNumberMasks>

ContactSearchSource

すべてのクライアントに適用されます。

前提条件: Jabber チームメッセージング モードが有効になっている。

Jabber チームメッセージングモードを実行している環境の Jabber 検索に使用するソースを指定します。検索結果とともに、その人物のプロファイル写真を閲覧し、電話することができます。

値として CI を使用して ContactProfileSearch パラメータを構成した場合、このパラメータは無視されます。

- CI (デフォルト) : Jabber ユーザーは、Teams ディレクトリの共通アイデンティティ (CI) にある連絡先を検索できます。
- CI-UDS-LDAP : Jabber ユーザーは、CI だけでなく、会社のディレクトリ (UDS/LDAP 上) から連絡先を検索できます。



(注) この値を使用する場合は、DirectoryServerType も使用する必要がある場合があります。

例 : <ContactSearchSource>CI-UDS-LDAP</ContactSearchSource>

ContactProfileSource

すべてのクライアントに適用されます。

前提条件: Jabber チームメッセージングモードが有効になっている。

Jabber チームメッセージングモードを実行している環境のユーザーの連絡先のプロファイルのソースを定義します。検索結果とともに、その人物のプロファイル写真を閲覧し、電話することができます。

- CI : Teams ディレクトリの共通アイデンティティ (CI) からのプロファイル情報。この値を設定すると、ContactSearchSource パラメータは無視され、予測検索は CI でのみ行われます。
- CI-UDS-LDAP (デフォルト) : Jabber は UDS または LDAP からプロファイル情報を取得します。写真や表示名など、ユーザーの詳細に競合がある場合、CI からのプロファイル情報は、UDS/LDAP からのプロファイル情報よりも優先されます。



(注) この値を使用する場合は、DirectoryServerType も使用する必要がある場合があります。

例 : <ContactProfileSource>CI-UDS-LDAP</ContactProfileSource>

DirectoryServerType

すべてのクライアントに適用されます。

連絡先の解決に使用するディレクトリサーバーのタイプを指定します。Jabber は、ContactSearchSource または ContactProfileSource を CI-UDS-LDAP に設定すると、このパラメータを調べます。

MRA に Expressway を使用する場合、Jabber はこのパラメータを無視し、UDS を使用します。

このパラメータに使用される値は次のとおりです。

- LDAP : LDAP サーバーに接続します。
- UDS : UDS (Cisco Unified Communications Manager サーバー) に接続します。この値は、すべての Cisco Jabber クライアントに使用され、Expressway モバイルおよびリモートアクセスに適用されます。

例 : <DirectoryServerType>LDAP</DirectoryServerType>

属性マッピングのパラメータ

次の表に、LDAP ディレクトリ属性をマッピングするためのパラメータを説明します。

CDI パラメータ	ディレクトリ属性	デフォルトでグローバルカタログ内に存在する	デフォルトでインデックス化されている	デフォルトで Ambiguous Name Resolution (ANR) に設定されている
CommonName	cn	はい	はい	いいえ
DisplayName	displayName	はい	はい	はい
Firstname	givenName	はい	はい	はい
LastName	sn	はい	はい	はい
EmailAddress	mail	はい	はい	はい
SipUri (注) クライアントは、URI ダイアルではなく、イントラドメインフェデレーションにこのパラメータを使用します。	msRtCISIPPrimaryUserAddress	はい	はい	はい
PhotoSource	thumbnailPhoto	いいえ	いいえ	いいえ

CDI パラメータ	ディレクトリ属性	デフォルトでグローバルカタログ内に存在する	デフォルトでインデックス化されている	デフォルトで Ambiguous Name Resolution (ANR) に設定されている
BusinessPhone	telephoneNumber	はい	いいえ	いいえ
MobilePhone	mobile	はい	いいえ	いいえ
HomePhone	homePhone	はい	いいえ	いいえ
OtherPhone	otherTelephone	はい	いいえ	いいえ
DirectoryUri (注) クライアントは、URIダイヤルにこのパラメータを使用します。	mail	はい	いいえ	いいえ
Title	title	はい	いいえ	いいえ
CompanyName	company	はい	はい	いいえ
UserAccountName	sAMAccountName	はい	はい	はい
DomainName	userPrincipalName	はい	はい	いいえ
	co	はい	いいえ	いいえ
Location		はい	いいえ	いいえ
Nickname	displayName	はい	はい	はい
PostalCode	postalCode	はい	いいえ	いいえ
City	l	はい	はい	いいえ
State	st	はい	はい	いいえ
StreetAddress	StreetAddress	はい	いいえ	いいえ

ディレクトリサーバーの属性

クライアントのLDAPディレクトリサーバーの属性にインデックスを付ける必要があります。これにより、クライアントは連絡先を解決できます。

デフォルトの属性マッピングを使用するには、次の属性にインデックスを付ける必要があります。

- sAMAccountName
- displayName
- sn
- name
- proxyAddresses
- mail
- department
- givenName
- telephoneNumber

さらに、セカンダリ番号クエリについては、次の属性にもインデックスを付ける必要があります。

- otherTelephone
- mobile
- homePhone



(注) Windows 版 Cisco Jabber では、デフォルトで、セカンダリ番号クエリが有効になっています。セカンダリ番号クエリは、DisableSecondaryNumberLookups パラメータを使用して無効にできます。

- msRTCSIP-PrimaryUserAddress

Windows 版 Cisco Jabber はデフォルトでグローバルカタログサーバーに接続するため、すべての属性がグローバルカタログサーバー上に存在することを確認する必要があります。Microsoft Active Directory スキーマスナップインなどの適切なツールを使用して、属性をグローバルカタログサーバーに複製できます。属性をグローバルカタログサーバーに複製するかどうかは選択できます。

- グローバルカタログサーバーに属性を複製すると、ドメイン内の Active Directory サーバー間にトラフィックが発生します。このため、属性をグローバルカタログサーバーに複製するのは、ネットワークトラフィックが余分な負荷を処理できる場合にのみする必要があります。
- グローバルカタログサーバーに属性を複製しない場合は、ドメインコントローラに接続するように Cisco Jabber を設定します。この場合、クライアントがドメインコントローラに接続する場合は単一のドメインしか問い合わせません。

UDS パラメータ

UDS サーバーへの接続、および連絡先の解決とディレクトリのクエリの実行に UDS パラメータを使用します。

UDS パラメータは、すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

ディレクトリ接続

PresenceDomain

プレゼンスノードのドメインを指定します。このパラメータは必須です。

このパラメータの唯一の値は、プレゼンスノードのドメインです。

クライアントは、IM アドレスを作成するために、このドメインをユーザー ID に付加します。たとえば、Adam McKenzie という名前のユーザーのユーザー ID が *amckenzie* であるとします。プレゼンスノードドメインとして *example.com* を指定します。

ユーザーがログインすると、クライアントは Adam McKenzie 用に *amckenzie@example.com* という IM アドレスを作成します。

例：<PresenceDomain>example.com</PresenceDomain>

UdsServer

Cisco Unified Communications Manager User Data Service (UDS) サーバーのアドレスを指定します。

このパラメータは、クライアントが自動的に UDS サーバーを検出できない手動接続に必要です。

- IP アドレス：UDS サーバーの IP アドレスを使用します。
- FQDN：UDS サーバーの FQDN を使用します。

例：<UdsServer>ccm1</UdsServer>

IM アドレス方式

UdsPhotoUriWithToken

変数値として、ディレクトリ属性が付いた写真 URI を指定します。

このパラメータは、UDS ディレクトリ統合に適用されます。次のいずれかのケースで連絡先の写真をダウンロードするには、このパラメータを指定する必要があります。

- UDSを使用するように `DirectoryServerType` パラメータを設定した場合。この設定では、企業のファイアウォールの内側または外側のクライアントが連絡先解決に UDS を使用します。
- モバイルおよびリモートアクセス用 `Expressway` を展開している場合。この展開では、企業のファイアウォールの外側のクライアントが自動的に連絡先解決に UDS を使用します。



制約事項 クライアントはクレデンシャルなしで、Web サーバから画像を取得する必要があります。

このパラメータの値は URI です。

例 : `<UdsPhotoUriWithToken>http://www.photo/url/path/%%uid%.jpg</UdsPhotoUriWithToken>`

UseSIPURIToResolveContacts

IM and Presence Service の IM アドレス方式を変更します。

- `true` : ディレクトリ URI スキームを使用します。
- `false` (デフォルト) : ユーザー ID @[デフォルト ドメイン] スキームを使用します。

例 : `<UseSIPURIToResolveContacts>true</UseSIPURIToResolveContacts>`

UriPrefix

SipUri パラメータから除外するプレフィックスを指定します。

唯一の値はプレフィックス文字列です。

たとえば、`sip:` が `msRTCSIP-PrimaryUserAddress` ディレクトリ属性の前に付加されている場合があります。

SipUri が `msRTCSIP-PrimaryUserAddress` に設定されていない場合は、タグ `-<UriPrefix>sip:</UriPrefix>` を削除します。

例 : `<UriPrefix>sip:</UriPrefix>`

SipUri

IM アドレス方式フィールドをマッピングするディレクトリ属性フィールドを指定します。

このパラメータの値は、次のディレクトリ属性フィールドのいずれかです。

- `mail`
- `msRTCSIP-PrimaryUserAddress`

例 : `<SipUri>msRTCSIP-PrimaryUserAddress</SipUri>`

EmailAddress

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

ユーザーデータサービス (UDS) のどの属性が電子メールアドレスであるかを指定します。このパラメータを値 `mail` で構成します。

例：

```
<EmailAddress>mail</EmailAddress>
```



(注) このパラメータは、最新の Jabber バージョンで LDAP クエリと UDS クエリの両方をサポートします。

DirectoryUriPrefix

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

データが LDAP からのものである場合にのみ、DirectoryUri 値から削除するプレフィックスを指定します。

たとえば、ディレクトリ URI が `sip:amckenzie@example.com` の場合、次のように設定します。

```
<DirectoryUriPrefix>sip:</DirectoryUriPrefix>
```

MaxWordsOfFirstName

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

このパラメータは、UDSディレクトリ統合に適用され、予測検索でユーザーの名に使用できる単語の最大数を指定します。ユーザーの名のデフォルト値は2単語で、最大単語数に制限はありません。

例：<MaxWordsOfFirstName>2</MaxWordsOfFirstName>

MaxWordsOfLastName

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

このパラメータは UDS ディレクトリ統合に適用され、予測検索でユーザーの姓に含めることができる単語の最大数を指定します。ユーザーの姓のデフォルト値は2単語で、最大単語数に制限はありません。

例：<MaxWordsOfLastName>2</MaxWordsOfLastName>

ディレクトリサーバーの構成の例

ここでは、サポートされている統合シナリオについて説明し、設定の例を示します。

ドメインコントローラの接続

ドメインコントローラに接続するには、次のパラメータを設定します。

パラメータ	値
ConnectionType	1

次に設定例を示します。

```
<Directory>
<ConnectionType>1</ConnectionType></Directory>
```

KerberosConfiguration

デスクトップ版 Cisco Jabber に適用されます。

jabber-config.xml ファイルに KerberosConfiguration パラメータを追加できます。パラメータ値は、MIT-Kerberos 構成ファイルとしてディスクに書き込まれます。

このパラメータを構成しない場合、Jabber はディレクトリ検索を実行するクライアントマシンが参加している Active Directory ドメインのみに接続できます。クライアントマシンが参加していない、その他の Active Directory ドメインに接続するには、domain_realm マッピングを構成します。

たとえば、マルチフォレスト環境で、AD インフラストラクチャに 2 つのフォレストがデプロイされているとします。ユーザーアカウントはフォレスト 1 にあり、リソースはフォレスト 2 にあります。この場合、domain1.com がユーザードメインとして構成され、domain2.com と child.domain2.com がリソースドメインとして構成されます。フォレスト 1 とフォレスト 2 の間に信頼関係を確立します。

ユーザーが domain1.com からサインインし、リソースドメインにアクセスする場合は、jabber-config.xml で適切な値を使用して KerberosConfiguration を構成します。



- (注) 1 行で入力してもケルベロス構成が機能しない場合は、この例のように複数行で入力してみてください。

例：

```
<Directory>
  <KerberosConfiguration>
    [domain_realm]
    .domain1.com = DOMAIN1.COM
    .child.domain1.com = CHILD.DOMAIN1.COM
```

```
</KerberosConfiguration>
</Directory>
```

Cisco Jabber の手動サーバー接続

ディレクトリサーバーに接続するには、次のパラメータを設定します。

パラメータ	値
PrimaryServerName	FQDN IP アドレス
ServerPort1	ポート番号
SecondaryServerName	FQDN IP アドレス
ServerPort2	ポート番号

次に設定例を示します。

```
<Directory>
<PrimaryServerName>primary-server-name.domain.com</PrimaryServerName>
<ServerPort1>1234</ServerPort1>
<SecondaryServerName>secondary-server-name.domain.com</SecondaryServerName>
<ServerPort2>5678</ServerPort2>
</Directory>
```

UDS の統合

UDS と統合するには、次のパラメータを設定します。

パラメータ	値
DirectoryServerType	UDS
UdsServer	UDS サーバーの IP アドレス
UdsPhotoUriWithToken	連絡先写真の URL
PresenceDomain	プレゼンスドメインのサーバーアドレス
(注) このパラメータを使用するのは、 電話機モードだけです。	



(注) すべての連絡先解決（つまり、企業ファイアウォールの内側と外側）に UDS を使用する場合にのみ、DirectoryServerType パラメータを UDS に設定します。

次に設定例を示します。

```
<Directory>
  <DirectoryServerType>UDS</DirectoryServerType>
  <UdsServer>11.22.33.444</UdsServer>
  <UdsPhotoUriWithToken>http://server-name/%%uid%.jpg</UdsPhotoUriWithToken>
</Directory>
```

LDAP Integration with モバイルおよびリモートアクセス用の Expressway との LDAP 統合

LDAPディレクトリ統合とモバイルおよびリモートアクセス用 Expressway が展開されている場合、クライアントは次を使用します。

- LDAP（企業ファイアウォール内の場合）
- UDS（企業ファイアウォール外の場合）



(注) LDAP がデフォルト設定のため、クライアント構成ファイルに DirectoryServerType パラメータを含める必要はありません。

クライアントが企業ファイアウォールの内側でも外側でも連絡先写真を解決できるよう、次のパラメータを設定します。

パラメータ	値
PhotoUriWithToken	企業ファイアウォール内の連絡先写真URL。
UdsPhotoUriWithToken	企業ファイアウォール外の連絡先写真URL。

次に設定例を示します。

```
<Directory>
  <PhotoUriWithToken>http://photo.example.com/sAMAccountName.jpg</PhotoUriWithToken>
  <UdsPhotoUriWithToken>http://server-name/%%uid%.jpg</UdsPhotoUriWithToken>
</Directory>
```

Cisco Jabber での簡易認証

簡易認証では、次の設定例のように簡易バインドを使用してディレクトリサーバーに接続できます。

```
<ConnectionUsername>username</ConnectionUsername>
<ConnectionPassword> password</ConnectionPassword>
```


翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。